



東映株式会社

2025年3月期連結決算 第2四半期(中間期)説明資料 (2024/4~2024/9)



公式LINE【東映IR News】



公式X【東映公式ニュース】

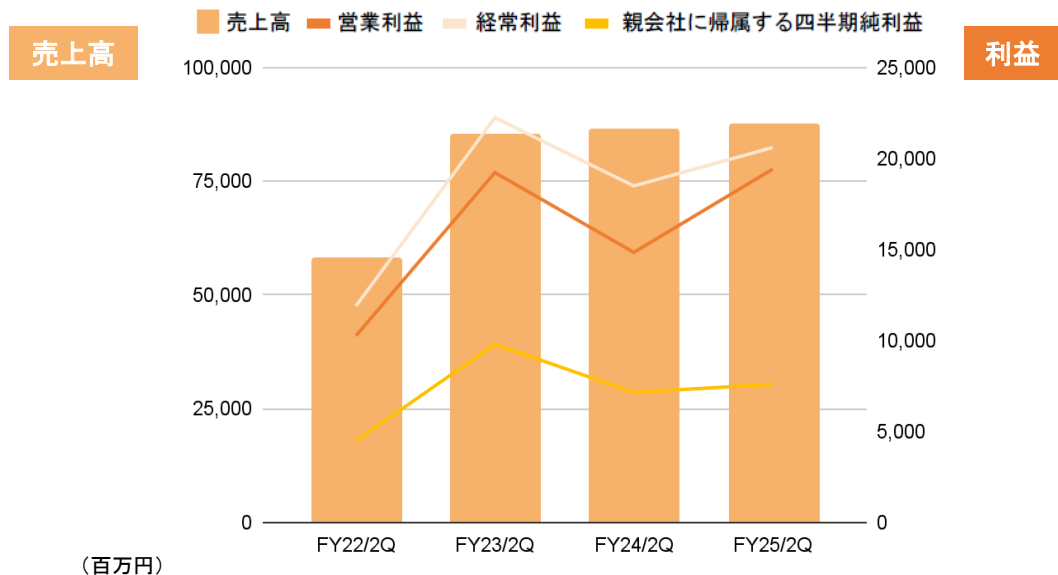


2025年3月期第2四半期（中間期）決算（連結）

（百万円）	FY22/2Q	FY23/2Q	FY24/2Q	FY25/2Q	前期比較	
売上高	58,084	85,422	86,618	87,764	1,146	1.3%
売上原価	33,526	49,852	53,299	49,238	▲4,060	▲7.6%
販管費	14,303	16,339	18,477	19,104	626	3.4%
営業利益	10,254	19,230	14,840	19,421	4,580	30.9%
経常利益	11,893	22,243	18,494	20,607	2,112	11.4%
親会社株主に帰属する 中間純利益	4,480	9,791	7,142	7,592	449	6.3%

※百万円未満を切り捨てて表示しております。

※FY=会計年度：FY25/2Qは2024年4月～2024年9月の期間



- 売上高 877億6千4百万円（前期比1.3%増）
- 営業利益 194億2千1百万円（前期比30.9%増）
- 経常利益 206億7百万円（前期比11.4%増）
- 親会社株主に帰属する中間純利益 75億9千2百万円（前期比6.3%増）

⇒2004年以降の同期比較で

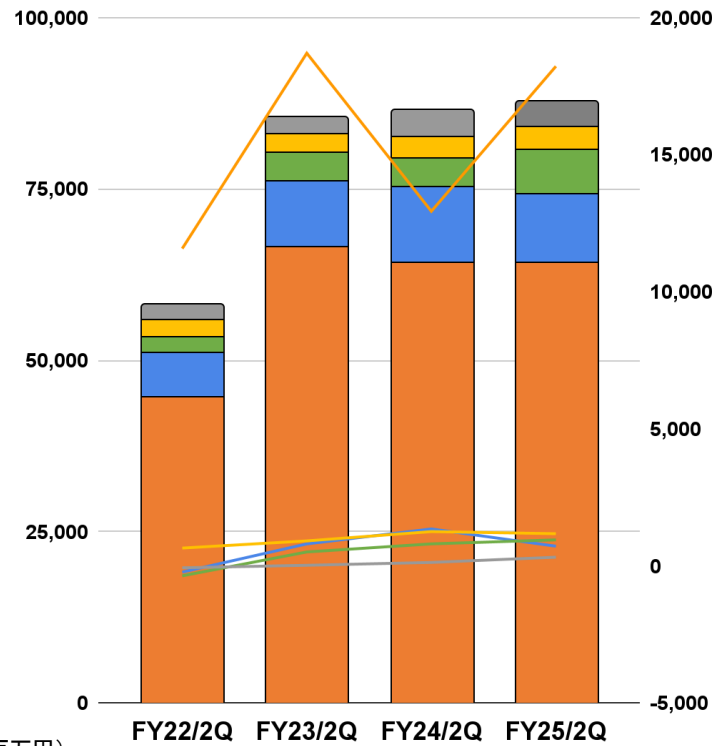
**売上高第1位、営業利益第1位、経常利益第2位、
親会社株主に帰属する中間純利益第2位**

<分析>

- マルチユース展開（商品販売、著作権販売、放送・配信権許諾販売、イベント、海外販売等）が第1四半期に続き好調、また劇場用映画『帰ってきたあぶない刑事』『わんだふるぷりきゅあ！ざ・むーびー！』がヒットし、売上高は好調だった前期を超えた。
- 前期計上していた劇場用映画『聖闘士星矢The Beginning』の製作品評価損が消失し、営業利益が増加した。

売上高

利益



セグメント	サブセグメント	FY24/2Q	FY25/2Q	増減	比較増減	セグメント割合
映像関連事業	映画	5,393	2,325	▲3,067	▲56.9%	3.6%
	ドラマ	4,673	4,296	▲377	▲8.1%	6.7%
	コンテンツ	43,768	48,228	4,460	10.2%	74.8%
	その他	10,594	9,610	▲984	▲9.3%	14.9%
	売上高合計	64,431	64,461	30	0.0%	100%
	利益合計	12,935	18,224	5,288	40.9%	
興行関連事業	売上高合計	10,980	9,943	▲1,037	▲9.4%	100%
	利益合計	1,347	717	▲629	▲46.8%	
催事関連事業	催事	3,433	5,652	2,218	64.6%	86.0%
	映画村	878	920	41	4.8%	14.0%
	売上高合計	4,312	6,573	2,260	52.4%	100%
	利益合計	802	948	146	18.2%	
観光不動産関連事業	不動産賃貸	2,176	2,245	69	3.2%	69.2%
	ホテル	898	997	98	11.0%	30.8%
	売上高合計	3,075	3,243	167	5.5%	100%
	利益合計	1,250	1,173	▲76	▲6.1%	
建築内装関連事業	売上高合計	3,818	3,542	▲275	▲7.2%	100%
	利益合計	125	316	190	151.9%	
売上高合計		86,618	87,764	1,146	1.3%	
利益調整額		▲1,619	▲1,958	▲338		
利益合計		14,840	19,421	4,580	30.9%	

※百万円未満を切り捨てて表示しております。

(百万円)

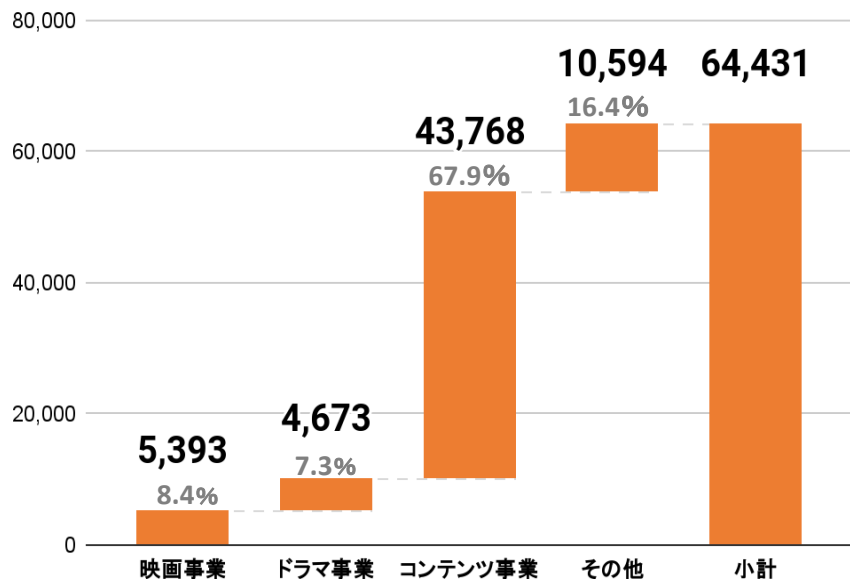
(百万円)		FY24/2Q	FY25/2Q	増減比率	
映像関連事業	売上高	64,431	64,461	30	0.0%
	利益	12,935	18,224	5,288	40.9%

●売上高は、コンテンツ事業のテレビ映画『ワンピース』『ドラゴンボール』シリーズ、劇場用映画『THE FIRST SLAM DUNK』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』のアニメーション作品の国内外の配信権販売などによる増収が、映画事業の減収を補い、前期比で横這いとなった。

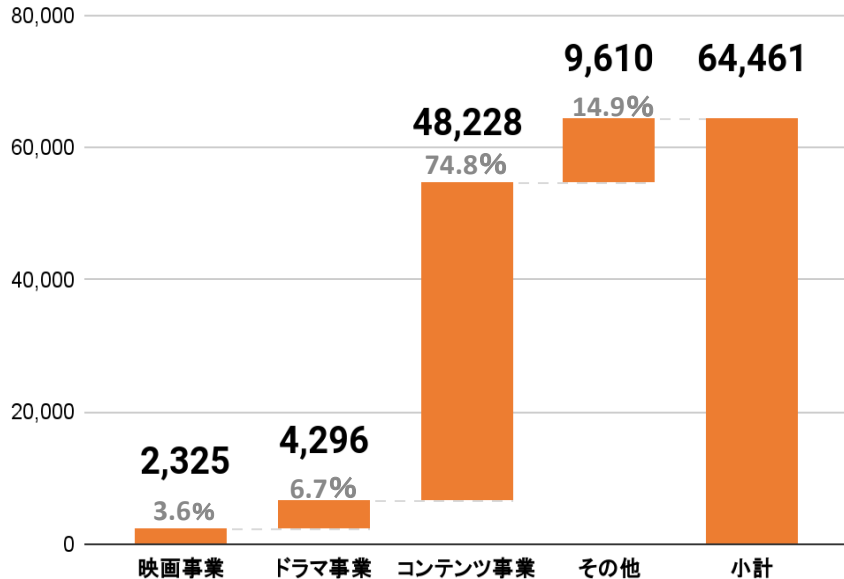
【サブセグメント別売上高】

●利益は、前期計上された劇場用映画『聖闘士星矢The Beginning』の製作品評価損がなくなったため前期比で増益となった。

FY24/2Q



FY25/2Q



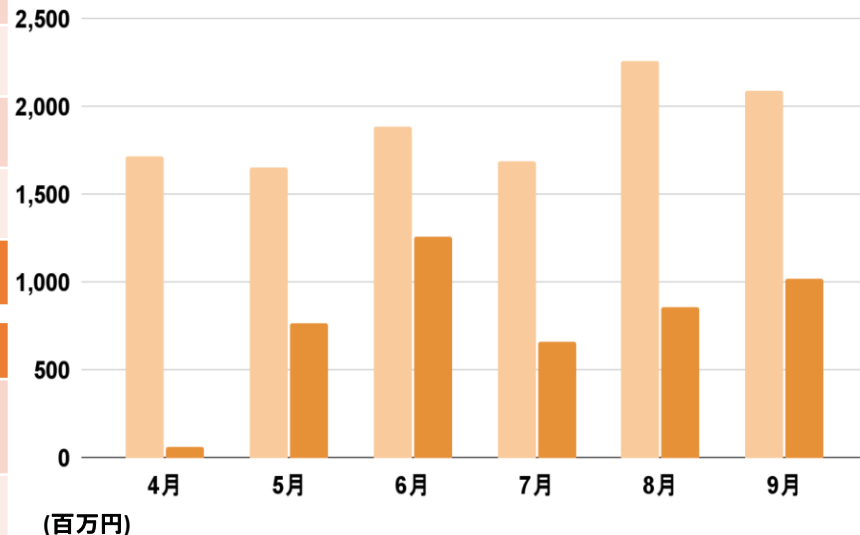
月間興行収入(億円)

	FY24	FY25	前年度比	FY25月別の主な稼働作品
4月	17.1	0.6	3.5%	『映画おしりたんていさらば愛しき相棒(おしり)よ』 『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』
5月	16.5	7.7	46.6%	『帰ってきた あぶない刑事』 『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』再上映
6月	18.8	12.6	67.0%	『帰ってきた あぶない刑事』 『BELIEVE 日本バスケットを諦めなかった男たち』 『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』再上映
7月	16.9	6.6	39.3%	『逃走中 THE MOVIE』 『映画 仮面ライダーガッチャード ザ・フューチャー・ディブレイク／爆上戦隊ブンブンジャー 劇場BOON！ プロミス・ザ・サーキット』
8月	22.6	8.6	38.1%	『THE FIRST SLAM DUNK 復活上映』 『映画 仮面ライダーガッチャード ザ・フューチャー・ディブレイク／爆上戦隊ブンブンジャー 劇場BOON！ プロミス・ザ・サーキット』
9月	20.9	10.2	49.0%	『わんだふるぷりきゅあ！ ざ・むーびー！』
合計	112.8	46.3	41.0%	

FY25/2Q（7月～9月）の主な稼働作品名	公開日	興収(億円)
『映画 仮面ライダーガッチャード ザ・フューチャー・ディブレイク／爆上戦隊ブンブンジャー 劇場BOON！ プロミス・ザ・サーキット』	7月26日	5.0
『THE FIRST SLAM DUNK 復活上映』	8月13日～9月1日 期間限定上映	5.1 興行全期間：164.6
『わんだふるぷりきゅあ！ ざ・むーびー！』	9月13日	9.6

月間興行収入

■ FY24 ■ FY25



【映画】 売上高 23億2千5百万円（前期比56.9%減）

- 提携製作作品等17本を配給し、『帰ってきた あぶない刑事』『わんだふるぷりきゅあ！ざ・むーびー！』がヒットし、『THE FIRST SLAM DUNK 復活上映』『BELIEVE 日本バスケットを諦めなかった男たち』『劇場版アイドルリッシュセブンLIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』の再上映が稼働した。
- 『劇場版アイドルリッシュセブンLIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』『THE FIRST SLAM DUNK』の大ヒット作に恵まれた前期と比べ大幅な減収になった。

- 『帰ってきた あぶない刑事』
実写オリジナル作品でありながら主人公「タカ&ユージ」はキャラクターとして確立した。コアファンに向けたイベント上映を行いロングランになったことがヒットの要因。
- 『わんだふるぷりきゅあ！ざ・むーびー！』
メインターゲットである親子層に加え、10代・20代を狙った施策を展開し、子供から大人まで幅広い世代を動員した。また、プリキュアシリーズの興行収入において前作に次ぐ歴代2位を記録した。
- 『THE FIRST SLAM DUNK 復活上映』
夏休みのイベント上映として、映画館をバスケットの試合会場に見立てた応援上映を複数回実施し、5.1億円の興行収入となった。（復活上映を加えた総興行収入は164億円を突破）
- 『BELIEVE 日本バスケットを諦めなかった男たち』
新しい顧客層としてスポーツファンを劇場へ動員した。

今後の 期待作

●『【推しの子】』

監督：スミス 出演：櫻井海音、齋藤飛鳥、齊藤なぎさ、原菜乃華、茅島みずき、あの
2024年11月28日（木）ドラマシリーズ：Amazon Prime Videoにて世界独占配信
2024年12月20日（金）映画：劇場公開

●『室町無頼』

監督：入江悠 主演：大泉洋
2025年1月17日（金）公開

●『大きな玉ねぎの下で』

監督：草野翔吾 主演：神尾楓珠、桜田ひより
2025年2月7日（金）公開

●『35年目のラブレター』

監督：塚本連平 主演：笑福亭鶴瓶、原田知世
2025年3月7日（金）公開



【ドラマ】売上高 42億9千6百万円（前期比8.1%減）

●『科捜研の女 season 24』『特撮9 season7』『君とゆきて咲く～新選組青春録～』『仮面ライダーガッチャード』『仮面ライダーガヴ』『爆上戦隊ブンブンジャー』『わんだふるぷりきゅあ!』『ブラック・ジャック』等を製作して作品内容の充実と受注本数の確保に努めた。特撮キャラクターの国内商品化権営業は玩具等に関する消費者の嗜好が多様化するなか、堅調に推移した。

2024年7月～9月放送作品

2024年3月3日～ 『爆上戦隊ブンブンジャー』（テレビ朝日系）

2024年4月24日～ 『君とゆきて咲く～新選組青春録～』（テレビ朝日系）

2024年7月3日～ 『科捜研の女 season24』（テレビ朝日系）

2024年9月1日～ 『仮面ライダーガヴ』（テレビ朝日系）



京都撮影所制作「深夜時代劇」

4月～9月期の2クールで放送した『君とゆきて咲く～新選組青春録～』（原作：手塚治虫『新選組』）は、ネクストブレイク候補の若手俳優を起用し、若い世代に「時代劇」をアピール。8月31日（土）・9月1日（日）のファンイベントは満員御礼の盛り上がりを見せた。

商品化権

特撮キャラクターでは玩具へのライセンスの他、ゲームとのコラボレーションを展開した。

「暴れん坊將軍」や「宇宙刑事シリーズ」3作品等のアーカイブ作品のポップストアへのライセンスを許諾した。

TOPIC

特撮番組の制作期間の見直し

2024年9月放送開始『仮面ライダーガヴ』は制作スケジュールを見直し、従来より3か月早く進行させた。

作品の完成を早めることで生まれるメリット

- センサーシップ（検閲）が必要な海外において、日本とのサイマル配信を目指し、海賊版の流布を防ぐ。海外展開を拡大させる。
- 作品・玩具ともにプロモーションを充実させることができ、認知向上に繋がる。
- 制作スケジュールに余裕が出て、撮影現場の働き方改革に繋がる。

スーパー戦隊シリーズでも制作の前倒しを行っており、『爆上戦隊ブンブンジャー』は従来より2ヶ月早く制作を開始した。

特撮シリーズの国内外における収益力を高めていく。



【コンテンツ】 売上高 482億2千8百万円（前期比10.2%増）

- テレビ映画『ワンピース』『ドラゴンボール』シリーズ、劇場用映画『THE FIRST SLAM DUNK』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』のアニメーション作品の国内外の配信権販売が好調だった。
- 実写作品は劇場用映画『キリエのうた』『身代わり忠臣蔵』の国内向け配信権販売が業績に貢献した。

【国内配信権販売】

- ・劇場用映画『THE FIRST SLAM DUNK』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』『身代わり忠臣蔵』『キリエのうた』『ワンピース』『ドラゴンボール』が貢献した。
- ・『七つの国』（Disney+「スター」で独占配信）が売上高に貢献した。
- ・Amazonプライムビデオチャンネルにおける課金プラン「東映オンデマンド」「マイ★ヒーロー」の売上高が伸長した。

【国内放送権販売】

- ・『レジェンド&バタフライ』『シン・仮面ライダー』等の新作劇場用映画の販売が好調だった。
- ・テレビ時代劇『暴れん坊将軍』『遠山の金さん』、劇場用映画『網走番外地』シリーズ、また新作公開に合わせたテレビ映画『あぶない刑事』等旧作が好稼働した。

【国内アニメ商品化権販売】

- ・『ドラゴンボール』『ワンピース』の著作権収入が好調だった。『ドラゴンボール』は新作『ドラゴンボールDAIMA』に合わせた旧作の販売が好調だった。

【国内Blu-ray/DVD販売】

- ・『キングオブジャーVSドンブラザーズ』『キングオブジャーVSキョウリュウジャー』『仮面ライダー555 20th パラダイス・リゲインド』『仮面ライダーギーツ ジャマト・アウェイキング』等のVシネキストが好稼働した。

【海外】

- ・配信権販売：『ワンピース』『ドラゴンボール』シリーズの配信権が好調だった。
- ・商品化権販売等：『ワンピース』『ドラゴンボール』シリーズが貢献した。また『仮面ライダーガヴ』『ビーロボバタック』『動物戦隊ジュウオウジャー』『デジモン』シリーズが好稼働した。その他香港での『仮面ライダー展』も盛況だった。
- ・上映権販売：北米『シン・仮面ライダー』『バトル・ロワイアル』、中南米『禁じられた遊び』、米英『仁義なき戦い』『女囚さそり』シリーズなどを販売した。

【その他】 売上高 96億1千万円（前期比9.3%減）

- ・『ワンピース』『プリキュア』シリーズ等のアニメーション作品の商品販売収入が好調に推移するも、前期大ヒットした『THE FIRST SLAM DUNK』の商品販売の反動減により、減収減益となった。

TOPIC**『ウイングマン』（全10話）**

桂正和の代表作『ウイングマン』を生誕40周年を記念して実写ドラマ化。

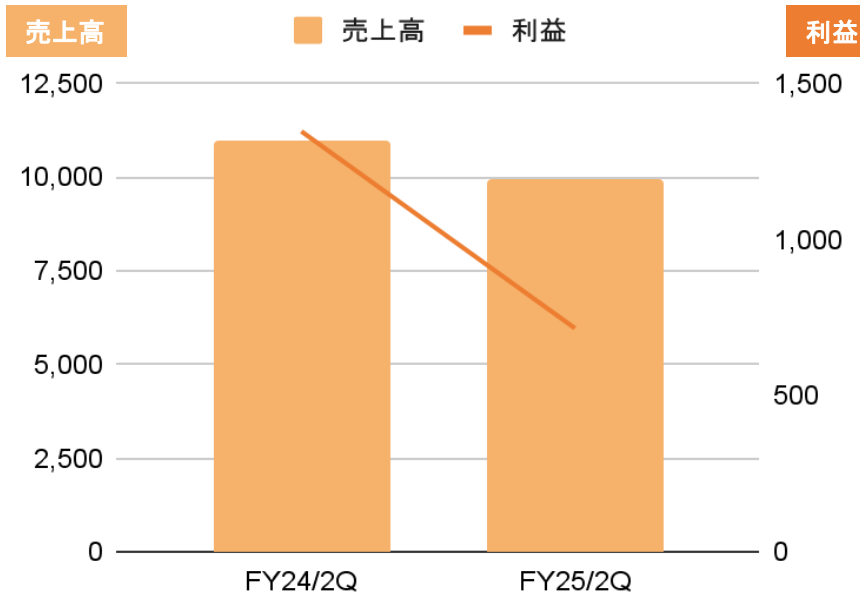
2024年10月22日～
配信：DMM TV
放送：テレビ東京

出演：藤岡真威人、
加藤小夏
監督：坂本浩一



キャラクターIPのリポート作品として、商品やイベントなどのマルチチャネル展開を見込む。IPのエバグリーン化を取組んでいく。

（百万円）		FY24/2Q	FY25/2Q	増減比率	
興行関連事業	売上高	10,980	9,943	▲1,037	▲9.4%
	利益	1,347	717	▲629	▲46.8%



（百万円）

- 株式会社ティ・ジョイによるシネマコンプレックス（共同経営・共同運営）の運営が中心。
- 23サイト232スクリーン体制（東映株直営館2スクリーン含む）で展開。
- 株式会社ティ・ジョイ
 - ・『名探偵コナン 100万ドルの五稜星』『キングダム 大将軍の帰還』『ルックバック』『ラストマイル』『インサイド・ヘッド2』等の作品が業績を牽引したものの、前期には及ばず、減収減益となった。
 - ・T・ジョイ エミテラス所沢の開業費用を当期一括計上したため減益幅が大きくなった。
 - ・コンセッションにおいて、価格変更、新販売システムの導入、オリジナル商品の開発等により客単価が増加した。
- 直営劇場
 - ・『帰ってきたあぶない刑事』『ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2024 in HITACHINAKA サザンオールスターズライブ・ビューイング』が成績に貢献した。

TOPIC

【株式会社ティ・ジョイ】

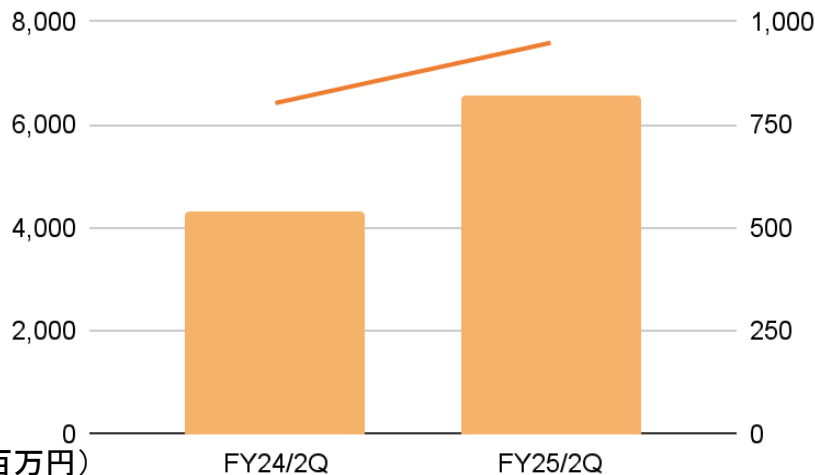
- T・ジョイ エミテラス所沢 9月24日グランドオープン
12シアター1,872席のシネマコンプレックス「T・ジョイ エミテラス所沢」を出店した。詳細はp16を参照。
- 「ScreenX with Dolby Atmos」12月11日 横浜ブルク13に導入
横浜ブルク13（株式会社松竹マルチプレックスシアターズ、株式会社東急レクリエーションとの共同経営）に、CJ4DPLEX社が展開する3面マルチプロジェクション映画上映システム「ScreenX」と、ドルビーラボラトリーズ社が展開する「Dolby Atmos」を兼ね備えた、「ScreenX with Dolby Atmos」を導入する。これにより、映像と音響の両面から最高の鑑賞環境を提供し、周辺劇場との差別化を図る。なお、株式会社ティ・ジョイ運営劇場（共同経営含む）での導入は、T・ジョイ京都（2024年6月21日導入）に続き2劇場目となる。

（百万円）		FY24/2Q	FY25/2Q	増減比率	
催事関連事業	売上高	4,312	6,573	2,260	52.4%
	利益	802	948	146	18.2%

売上高

■ 売上高 ■ 利益

利益



【東映太秦映画村】売上高 9億2千万円（前期比 4.8%増）

●東映太秦映画村

リニューアル工事により営業エリアの一部を制限しているものの、『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』などIPとコラボレーションした『ゲゲゲの妖怪村』（2024年4月20日～6月30日）や『刀剣乱舞 廻～京の軌跡～』（2024年7月13日～9月1日）、またオリジナルイベント『怪々yokai祭』（2024年9月14日～12月8日）を実施し、来場者数を維持した。

【催事】売上高 56億5千2百万円（前期比64.6%増）

●イベント事業

・自社IPイベント『王様戦隊キングオージャーファイナルライブツアー2024』『わんだふるぷりきゅあ！ いっしょにあそぼ♪わんだふるワールド』『仮面ライダー×スーパー戦隊 Wヒーロー夏祭り』が前年を大きく上回る成績。
・『東京リベンジャーズ中華街ミッション』等、他社IPの催事も好調だった。

●商品事業

・劇場商品は前期の大ヒット作『THE FIRST SLAM DUNK』の反動減となった。
・オンラインストアは前期を上回り好調に推移した。

TOPIC

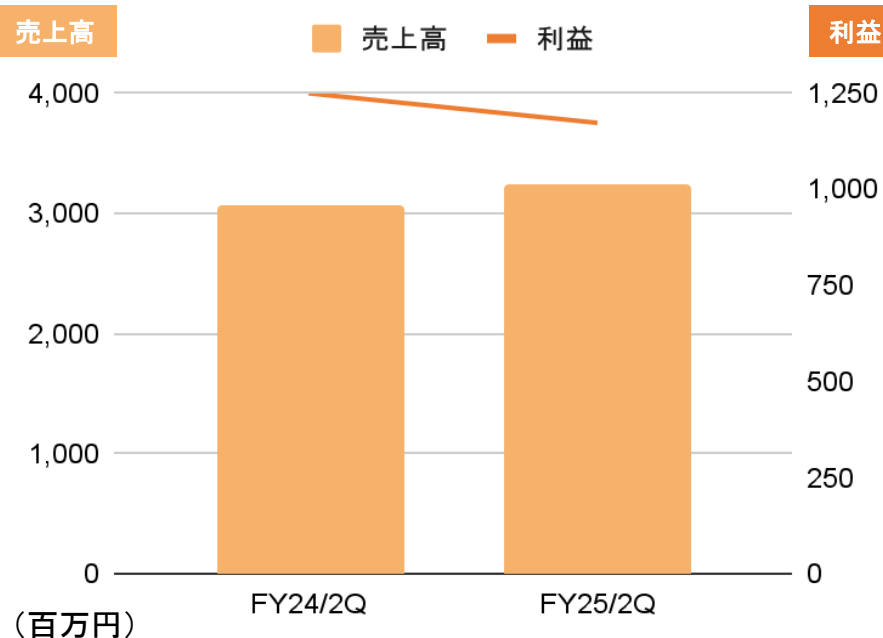
『王様戦隊キングオージャーファイナルライブツアー2024』

静岡、札幌、仙台、新潟、名古屋、広島、福岡、大阪と全国8か所を巡り前年の『暴太郎戦隊ドンブラザーズファイナルライブツアー』と比較して約160%の売上高を記録し、最高の収益を更新した。

コロナ禍からの回復に加え、本作はキャストの人气が高かった。



(百万円)		FY24/2Q	FY25/2Q	増減比率	
観光不動産事業	売上高	3,075	3,243	167	5.5%
	利益	1,250	1,173	▲76	▲6.1%



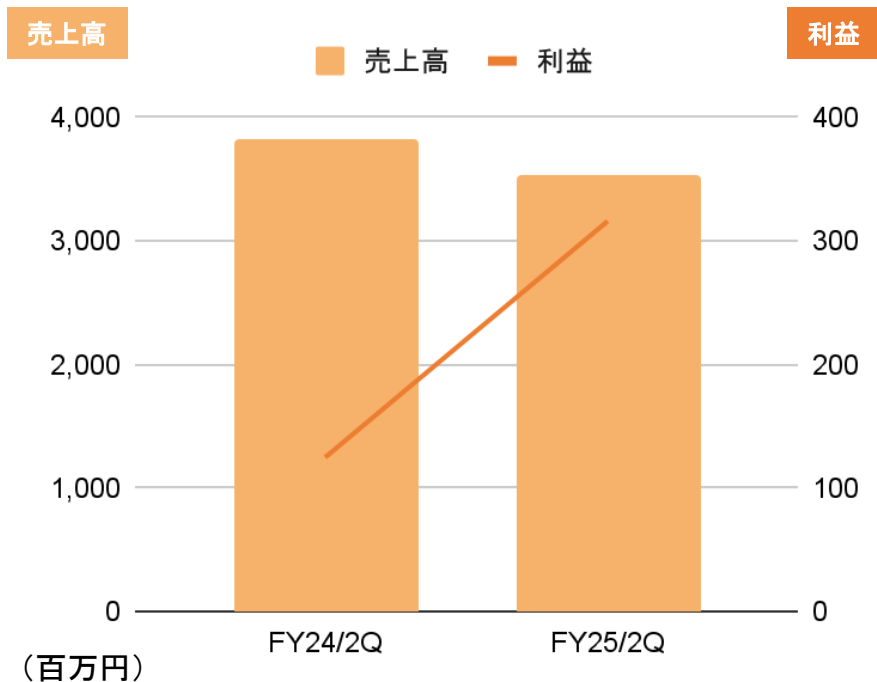
【不動産賃貸】 売上高 22億4千5百万円（前期比3.2%増）

- ・全国に所有する「東映プラザ（渋谷・福岡・広島・仙台）」「新宿三丁目イーストビル」等の複合商業施設、マンション等の賃貸運営が堅調に推移した。
- ・商業、レジデンス、オフィス物件の賃貸のリーシングを強化し、低空室率を実現した。
- ・映画村再開に伴う建物等の早期償却により減価償却費が増加した。

【ホテル】 売上高 9億9千7百万円（前期比11.0%増）

- ・インバウンド需要や団体利用の回復が見られる反面、光熱費等の物価高の影響を受けるなか、価格改定やコスト管理の徹底に努めるなど収益の確保に努めた。

(百万円)		FY24/2Q		FY25/2Q		増減比率	
		売上高	3,818	3,542	▲275	▲7.2%	
建築内装事業	売上高	3,818	3,542	▲275	▲7.2%		
	利益	125	316	190	151.9%		



・株式会社東映建工がシネマコンプレックスの新規工事や改装工事をはじめ老健施設や楽器店、飲食店等の商業施設の内装工事を受注した。

・資材や経費の高騰、労働力の適正な維持及び確保などの厳しい経営環境の中、シネマコンプレックスの新設工事を中心とした大型プロジェクトを堅実に完了させることで利益を確保し、大幅な増益となった。

・シネマコンプレックスからのリピート工事件数が増加。映画館内装工事の実績で得た知見やスキルが評価された。

2025年3月期通期の連結業績予想の修正

業績動向を踏まえ、2024年5月15日に公表しました2025年3月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 156,000	百万円 24,400	百万円 27,700	百万円 10,800	円 銭 174.45
今回修正予想(B)	171,600	31,800	34,700	13,400	216.44
増減額(B-A)	15,600	7,400	7,000	2,600	
増減率(%)	10.0	30.3	25.3	24.1	
(ご参考) 前期実績 (2024年3月期)	171,345	29,342	35,317	13,971	225.68

(注) 当社は、2024年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。
前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

修正の理由

アニメ関連で、国内外の配信権販売・著作権事業が、期初見込みを上回り好調に推移したこと等により、上記見通しになる見込みです。

なお、実際の業績は、当社グループの事業を取り巻く経済環境、市場動向等様々な要因により、記述されている業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

參考資料

東映グループのビジネスモデル

① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ・ 劇場映画 4,400作品以上
- ・ テレビ映画 39,000話以上
- ・ 配信映画 600話以上

オリジナル

原作もの



映像製作インフラ

- ・ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



東京撮影所



京都撮影所

映像研究



ツクン研究所

ポストプロ



東映ラボ・テック

アニメ



大泉スタジオ

② マルチユース展開

- ・ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャンネルをカバー

配給

DVD Blu-ray

興行

商品化

テレビ放送

書籍化

配信

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTube Official

③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加

IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益 最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね

企画



製作



マルチ
ユース



利益の積重ね

企画



製作



マルチ
ユース



IP

接点
増加

主な取り組み

- 株主還元
 - ・ 優待特典のご紹介
- 映像事業の強化
 - ・ 「T・ジョイ エミテラス所沢」 9月24日オープン
- グローバル展開
 - ・ 「東映太秦映画村」×Fortnite アクション・タイクーンゲーム
 - ・ 生誕50周年記念『THE仮面ライダー展』香港会場レポート
- ブランディング
 - ・ 東映公式グッズ「東映荒波計画」
- サステナビリティ 映画文化の継承
 - ・ 没後10年 高倉健 特集上映

優待特典のご紹介

2024年3月31日（日）を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式1株につき、5株の割合をもって分割いたしました。それに伴い、株主優待制度を変更しております。

■優待券発行数

【変更前】（半年ごとに発行）基準日3月末・9月末

基準株数	優待券発行数
100株以上	6枚綴り 1冊
200株以上	” 2冊
400株以上	” 4冊
700株以上	” 6冊
1,300株以上	” 8冊
2,000株以上	” 10冊
4,000株以上	” 20冊
6,000株以上	” 30冊

【変更後】

基準株数	特製QUOカード (1年ごとに発行) 基準日3月末	優待券発行数 (半年ごとに発行) 基準日3月末・9月末
100株以上	1,000円相当	—
500株以上	1,000円相当	6枚綴り 1冊
1,000株以上	1,000円相当	” 2冊

■長期保有株主優待制度の新設

当社株式を長期にわたり保有していただいている株主へのさらなる感謝の意を表すとともに、より多くの株主に当社株式を中長期的に保有していただくことを目指し、長期保有株主向け優待制度を新設いたしました。

毎年3月末・9月末現在の当社株主名簿に、同一株主番号で3回以上連続して1単元（100株）以上の保有株式数が記載または記録された株主を対象とし、株主優待に加え、長期保有株主優待制度として、「**撮影所見学ツアーやグッズ等**（応募者の中から抽選）」を追加贈呈いたします。

長期保有株主優待 第1弾

『悪魔が来りて笛を吹く』復刻上映会ご招待

長年ロストフィルムと考えられてきた『悪魔が来りて笛を吹く』（1954年公開）の16mmフィルムが奇跡的に発見され、クラウドファンディングプロジェクトにより傷んだフィルムからデジタル修復をいたしました。丸の内TOEIにて行われる、本作の復刻上映会にご招待いたします。

- 上映会&フィルムしおりセット
(10組20名様)

日時：2025年1月26日（日）
13時30分開場・14時開映
場所：丸の内TOEI①
(東京都中央区銀座3-2-17)

- フィルムしおり (20名様)

ご応募はこちら
<https://f.msgs.jp/n/form/kup/LEdamwMcQHdvQy7A9vU7R>

※応募期間：2024年12月15日まで



募集開始は、東映公式LINE「東映IR News」にてお知らせいたします。公式LINEアカウント「東映IR News」では、最新の企業情報や株式情報、株主優待、抽選プレゼントのご案内など、東映IRニュースをいち早くお届けしております。また、毎四半期決算報告も配信しております。
☞ご登録はこちら

長期保有株主優待 第2弾

「東映東京撮影所見学ツアー」

バーチャルプロダクションやLight Stage、スタジオなどの所内見学ツアーを実施いたします。最先端映像技術による最新の映像製作をご見学いただけます。



バーチャルプロダクション



Light Stage

※見学内容は撮影所の業務都合により、直前に変更となる可能性があります。何卒ご了承ください。

日時：2025年3月19日（水）
10：00～12：00
(機関投資家)
14：00～16：00
(個人投資家)

場所：東映東京撮影所
(東京都練馬区東大泉2-34-5)
募集人数：10組20名様

2024年9月30日（月）時点の株主名簿に記載または記録された株主への株主優待より変更、および長期保有株主優待制度の適用を実施しております。長期保有株主優待制度における保有期間の判定については、2024年9月30日（月）から過去に遡って行います。

東映グループの株式会社ティ・ジョイは、株式会社西武リアルティソリューションズと住友商事株式会社の2社が開発を行う「エミテラス所沢」内に、株式会社西武リアルティソリューションズと株式会社松竹マルチプレックスシアターズとの共同運営による**12シアター1,872席**のシネマコンプレックス「T・ジョイ エミテラス所沢」を出店いたしました。



※ロビーイメージ



「IMAX[®] レーザー」「ScreenX」「Dolby Atmos[®]」3つの特徴的なシアターや**スペシャルシートの導入**など多彩な座席設計により、圧倒的な臨場感と快適な鑑賞環境を実現し、くつろぎと華やかさを併せ持つロビー空間はすべてのお客様がストレスフリーにご利用いただける場を提供いたします。

施設概要

- 店舗名称 : T・ジョイ エミテラス所沢
- 施設規模 : 12スクリーン 合計 1,872 席 (車椅子スペース 42 席含)
- オープン日 : 2024年 9月 24日 (火) グランドオープン
- 住所 : 埼玉県所沢市東住吉 10番地 1号 エミテラス所沢 4F



「エグゼクティブシート」※追加料金あり
人間工学に基づいたデザインとクッション部の二重構造により、柔らかく体が包まれるような贅沢な座り心地を体感いただけます。



「プレミアムシート」※追加料金あり
高級感あふれる木目調のデザインが採用されており、座り心地のよい革張シートは、疲れやストレスを感じさせません。



「リクライニングシート」※追加料金あり
シアターの最前列に配置され、本シート独自の臨場感や迫力が体感できるシートです。
寝そべるように体重をかけるだけで、リラックスした体勢で映画の世界に没入することができます。



「カウンターシート」※追加料金あり
シアターの最後列に配置された、座席とカウンターを合わせたシートです。隣席との幅が他座席より広く、飲み物や軽食などを楽しみながらご利用いただけます。

東映太秦映画村 × Fortnite
アクション・タイクーンゲーム
『YO-KAI TYCOON Toei Kyoto Studio Park』

東映グループの株式会社東映京都スタジオは、株式会社The UnitとHypolygon株式会社と協業し、令和6年度日本博2.0事業の一環として、「Fortnite(フォートナイト)」上に、『YO-KAI TYCOON Toei Kyoto Studio Park』を10月1日10時から公開しました。



世界に5億人のユーザーが存在するFortnite上に時代劇テーマパーク「東映太秦映画村」を初めて再現しました。

建物のみならず小道具まで細部にわたり江戸の街並みを再現。侍や忍者が存在する世界の中、資源を集め、武器を鍛え、仲間を集めながら妖怪と戦うゲームです。

世界中のFortniteユーザーに提供することで、東映太秦映画村を知らない外国人に認知を広め、インバウンドの集客を狙っています。

ゲームURL：
<https://www.fortnite.com/@hypolygon/3128-2374-7280?lang=ja>

※使用料料：
無料（2024年10月1日～2025年3月31日まで。課金アイテム等はなし）



ゲームプレイ デモ映像：<https://www.youtube.com/watch?v=EdwFCbUbrqM>

生誕50周年記念『THE仮面ライダー展』
香港会場レポート



＜幟面超人 50 週年紀念展＞
日程：2024年9月28日～11月24日
会場：香港 INCUBASE Arena

2022年より全国9都市を巡った『生誕50周年記念 THE 仮面ライダー展』が、初の海外進出しました。2024年9月28日～11月24日の間、香港で開催中です。『仮面ライダー』はアジア圏では『幟面超人』『幟面騎士』の名前で親しまれています。今後各国を巡回予定です。



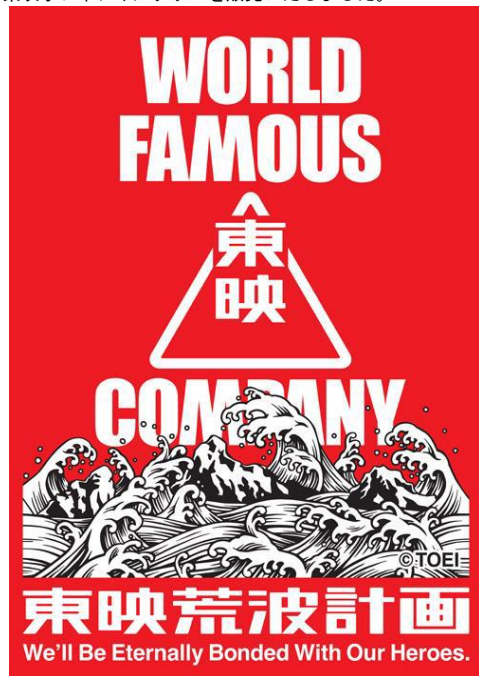
大集合パネルの前では、多くのお客様が思い思いの仮面ライダーを指さしながら熱心に話っていました。

写真撮影コーナー、オリジナルグッズ、フード・ドリンク等、香港限定企画を多数ご用意。



当社は10（トウ）月8（エイ）日、「東映」の日に「東映荒波計画」をリリースしました。

東映のロゴや配給マークをあしらったTシャツ、キャップ、タオル、靴下、ステッカーなど魅力あふれる東映オフィシャルグッズを販売いたしました。



【Tシャツサンカク white】
SIZE:M,L,XL,2XL

【Tシャツサンカク black】
SIZE:M,L,XL,2XL



【スポーツタオル】
約85cm×約35cm



【キャップ】
フリーサイズ



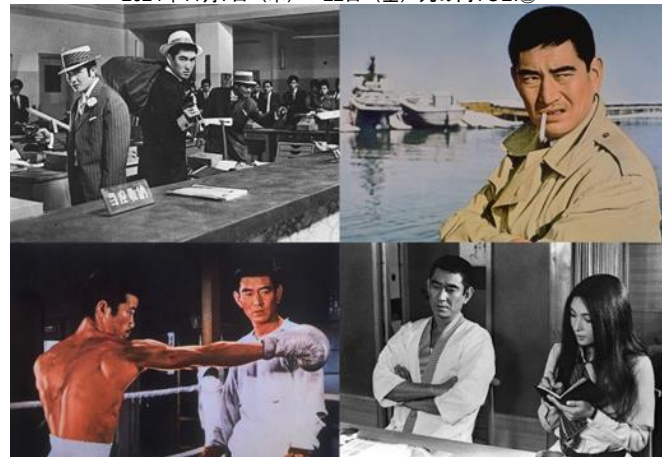
【ソックス】
25～28cm



【ステッカー】
210mm×148mm内

「没後10年 高倉健特集 銀幕での再会」

2024年11月7日（木）～22日（金）丸の内TOEI②



左上『花と嵐とギャング』1961年※モノクロ
右上『網走番外地 北海篇』1965年※カラー
左下『ごろつき』1968年※カラー
右下『現代任侠史』1973年※モノクロ

2014年11月10日に83歳で高倉健さんが亡くなってからもう間もなく10年。日本が生んだ永遠不滅の大スター・高倉健出演映画の特集を「没後10年 高倉健特集 銀幕での再会」として、11月7日(木)より丸の内TOEIにて上映中です。

これまでデジタル上映されなかった『花と嵐とギャング』『悪魔の手毬唄』『ジャコ萬と鉄』『狼と豚と人間』『山口組三代目』『現代任侠史』など**10本の初デジタル上映作品**を始め、鶴田浩二・藤純子（現・富司純子）の主演作品に客演した「脇役でも輝く健さん」作品、また東宝・松竹・KADOKAWA配給作品も含む**珠玉の19作品を一挙上映**します。

さらに、高倉健さんの没後10年を機に、東京国際映画祭の特集上映、DVDソフトの発売、東映チャンネル、日本映画専門チャンネル、BS12などのCS、BS放送での特集放映、各種配信サービスでの配信、よみうりギャラリーでの没後10年展、文春ギャラリーの写真展など数々の企画や催しが予定されています。

日本を代表する名優とその作品を未来へ伝えることは当社の使命の一つです。

多くの外国人が訪れる日本。国際化が進む中で、時代劇、特撮、アニメや漫画といったジャパニーズコンテンツに加え、漢字などの文字文化も多くの外国人の興味を強く引き付ける要素の1つとなっています。そこで当社では、自社のロゴや、荒波が岩礁に激しくぶつかる東映映画作品の冒頭に流れる配給マーク（オープニング映像）を改めてデザインし商品化しました。「東映荒波計画」は、今後も引き続き、国内外へ自社ブランドを発信します。

中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」全体像

To the World , To the Future

— 「ものがたり」で世界と未来を彩る会社へ —

経営ビジョン2033

2026年で目指す姿

実写・アニメともにグローバルコンテンツの創造発信基盤を確立する

東映グループの強み

企画製作力

⋮

マルチユース展開

成長戦略

実写、アニメ映像事業を強化・拡大し、グローバル展開を加速する

重点施策

1 映像事業収益の最大化

1. 企画製作力の強化
2. コンテンツのマルチユース促進
3. IPライフサイクルの長期化

2 グローバル展開へのチャレンジ

1. グローバルメジャーと共同開発・世界展開
2. 現地企業とローカライズオリジナル作品の共同制作

3 映像事業強化のための人的投資の拡大

4 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化

- ① 事業基盤強化に向けた投資戦略
- ② コーポレートガバナンスの強化
- ③ サステナビリティへの取り組み
- ④ 資本・財務戦略

映像作品 ラインナップ

【映画】

- 2025年1月17日 『室町無頼』
- 2025年2月7日 『大きな玉ねぎの下で』
- 2025年3月7日 『35年目のラブレター』
- 2025年3月20日 『映画おしりたんていスター・アンド・ムーン』
- 2025年春 『花まんま』
- 2025年 『宝島』



【テレビ】

- 2024年3月3日～ 『爆上戦隊ブンブンジャー』 (テレビ朝日系)
- 2024年9月1日～ 『仮面ライダーガヴ』 (テレビ朝日系)
- 2024年10月16日～ 『相棒 Season23』 (テレビ朝日系)



【アニメーション】

- 2024年10月5日～ 『科学×冒険サバイバル!』 (NHKエテレ)
- 2024年10月11日～ 『ドラゴンボールDAIMA』 (フジテレビ)
- 2024年11月3日～ 『アサティール2 未来の昔ばなし』 (テレビ東京系列)
- 2025年1月11日～ 『魔法つかいプリキュア!! ～MIRAI DAYS～』 (ABC・テレビ朝日系列)

【配信ドラマ・映画】

【配信ドラマ・テレビ】

2024年11月28日 21:00
『ドラマ【推しの子】』
Prime Videoにて配信スタート

2024年10月22日～
『ウイングマン』
テレビ東京にて放送
DMM TVにて配信

2024年12月20日
『映画【推しの子】』
全国公開



配信・催事 ラインナップ

【配信】

- 2024年11月10日 『王様戦隊キングオージャー IN SPACE』 デザイロワイヤル
2024年12月 『仮面ライダーアウトサイダーズ ep.7 アウトサイダーズと最期の戦い』
2025年春 『冥黒の黙示録 ラケシス』



【催事】

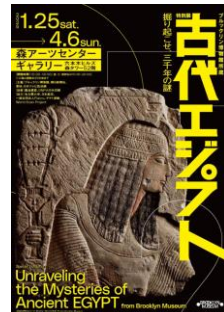
- 『QuizKnockと巡る 江戸東京博物館展』 2024年10月～ 静岡、宮城
- 『仮面ライダーガッチャードキミと僕の卒アル展』 2024年11月～ 大阪、東京
- 『おジャ魔女どれみ25周年メモリアル展』 2024年11月～ 愛知
- 『原作45周年記念「キン肉マン」愛と絆の原画展』 2024年11月～ 大阪
- 『TVアニメ放送25周年記念イベント ONE PIECE EMOTION』 2024年12月～ 熊本
- 『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』 2025年1月～ 東京ほか

【ショー・舞台】

- 『仮面ライダースーパーライブ2025』 2024年12月～ 東京、宮城、熊本、青森、広島、北海道、山口ほか
- 『ライドカメンズ The STAGE』 2025年1月～ 東京、大阪
- 『超英雄祭 KAMEN RIDER × SUPER SENTAI LIVE & SHOW 2025』 2025年2月～ 神奈川

【商品】

- 仮面ライダーストアTOKYO/OSAKA



本資料について

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東映株式会社 経営戦略部広報室

TEL:03-3535-7564 MAIL : keisen_koho@toei.co.jp

担当：内藤 奥本 加藤

©赤坂アカ×横槍メンゴ／集英社・2024 映画【推しの子】製作委員会 ©2024「帰ってきた あぶない刑事」製作委員会 ©2024「BELIEVE」製作委員会 ©FIBA ©日本バスケットボール協会
©2024 わんだふるぷりきゅあ! ゼ・むーびー! 製作委員会 ©I.T.PLANNING, INC. ©2022 THE FIRST SLAM DUNK Film Partners ©2025「室町無頼」製作委員会 ©2024映画「大きな玉ねぎの下
で」製作委員会 ©2025「35年目のラブレター」製作委員会 ©テレビ朝日・東映 ©手塚プロダクション／テレビ朝日・東映 ©石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©桂正和／集英社・「ウ
イングマン」製作委員会 ©テレビ朝日・東映AG・東映 ©2024「十一人の賊軍」製作委員会 ©東映 ©トロール・ポプラ社／2025「映画おしりたんてい」製作委員会 ©2025「花まんま」製作
委員会 ©2025「宝島」製作委員会 ©バード・スタジオ／集英社・東映アニメーション ©ABC-A・東映アニメーション ©Gomdori co., Kim Jeung-Wook, Han Hyun-Dong／Mirae N／Ludens
Media／朝日新聞出版／NHK・NEP・東映アニメーション ©マンガプロダクションズ ©東映特撮ファンクラブ ©石森プロ・東映 ©2024 石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©2023 石森
プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©東映アニメーション ©「ライドカメンズThe STAGE」製作委員会 ©BANDAI ©石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映AG・東映 ©ゆでたまご
©Eiichiro Oda/Shueisha, Toei Animation Photo: Brooklyn Museum